

授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：在地の参加型実践研究で学ぶ過疎・離農問題 ILAS Seminar : Learning the problems of depopulation and abandoning farming through			担当者所属 職名・氏名	東南アジア研究所 准教授 安藤 和雄		
群	少人数群	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール
開講年度・ 開講期	2016・ 前期集中	受講定員 (1回生定員)	5(5)人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	集中 8月5日～7日、1 ～5限	教室	稲盛財団記念館331及び学外			使用言語	日本語及び英語
キーワード	参加型実践研究 / 過疎・離農問題 / フィールド実習型講義 / 国際協働実習 / 京都府美山町知井地区						

#### [授業の概要・目的]

日本の農村部で進行している過疎・離農の問題は、小・中・高校の授業で触れられているにもかかわらず、全国版や都市版のテレビ、新聞報道、インターネットの報道で取り上げられることが少ない。したがって、都会に住む人々にとっては、日常生活の外の出来事であることが多い。日本における過疎・離農は、すでに農村部での廃屋、耕作放棄地を増加させ、農村景観を変えつつある。すでにこの問題は1970年代から注目されてきたが、問題を克服する決め手となる対策はほどこされていない。過疎・離農地帯では集落機能や耕地の維持させも村の外部者のボランティア支援なしにはなりたたなくなっているところも少なくない。平成26年4月5日現在で、過疎市町村は全国に797で、46.7%である。平成22年の国勢調査による人口比で8.9%、面積比58.7%である。国が国として維持すべき国土の問題からしても、人口の偏在が起こしている問題は放置できないレベルにまで達していると言えよう。近代的な都市的暮らしが田舎暮らしに優越するという「単純な価値観」は、経済開発のグローバル化に伴い、今や日本だけの問題から、アジア諸国、なかでも山岳国であるブータンでは顕著になりつつある。そして経済発展のグローバル化に伴い世界が火急に取り組まなければグローバル問題群の一つとなっているといっても過言ではないだろう。この問題にアプローチするためには、単純な価値観を打ち崩すためにも、過疎・離農の問題に直面し現場で暮らしている人々が行っている問題に接し、現場でのボランティア活動に参加し、現地の人々から学び、五感を通じて実感としてこの問題を理解し、その中で糸口を協働活動として模索する、学び=創出という参加型実践研究を参加型農村調査と学習(PLA)することがもっとも有効となる。過疎・離農問題へのアプローチは、一方で自分自身の生き方を再考する機会ともなろう。京都府南丹市美山町知井地区での取り組み、亀岡市保津または大井町での農家訪問、滋賀県守山市役所での取組と美崎自治会での取組について学ぶ。確定されていないが、同時期にブータン国もしくは他国からの若手研究者学生4名が日本の農村開発を学ぶために来京する場合は、合同のPLAを企画する予定である。本授業は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」(京都学教育プログラム)における「いきよし」として開講されるものである。

#### [到達目標]

- ・ 京都府美山町知井、亀岡市保津町または大井町、滋賀県守山市美崎で参加型農村調査で日本における過疎・離農問題を中心に地域再生の取組について理解できる。
- ・ 週講義の現場では、地形や生態の観察、村人からの聞き取りなどの記録のフィールドワークとフィールドノートのつけ方を学ぶ。
- ・ 参加者内で発表会を行うことで、「経験にもとづく事実」を人にわかるように発表するという発表の技術と議論の仕方について学ぶ。

**【授業計画と内容】**

事前説明会 受講生が確定したい、KULASISを通じて、場所、時刻などを通知するが、4月中に一度受講生に集まっていたいただき、説明会を開催する。4月14日(木)午後6時より東南アジア研究所東南亭に集中講義履修者は集合してください。(違う場所になった場合は後ほど登録者に連絡する)集中講義の予定は、現地の受け入れ先の事情等で変更になることもあるが、期間はこの期間として設定する。

集中講義として、8月5 8日の3泊4日で行う。宿泊費と食費代の実費は参加者負担となる。農家民宿あるいは公共の集会場(公共の集会場の場合は宿泊費は無料となる)。自炊。

8月5日(金)9:00 東南アジア研究所 集合 出発  
11:00 知見集落 水田杉林地への転換地のPLA  
12:30~13:30 昼食  
13:00 知井振興会にて地域振興に関する講義を聞く  
15:00 北集落かやぶきの屋根の里でのPLA  
18:00 東南アジア研究所 帰学 解散

8月6日(土)9:00 東南アジア研究所 集合  
10:30 亀岡市千歳町 基盤整備地区でのPLA  
12:30~13:30 昼食  
14:00~16:00 亀岡市保津町もしくは大井町にて農家での聞き取り  
18:00 東南アジア研究所 帰学 解散

8月7日(日)9:00 東南アジア研究所 集合 出発  
11:00 滋賀県守山市市役所にて地域再生の取組について講義を受ける。  
13:00~14:00 昼食  
14:00~16:00 守山市美崎自治会にて取組のPLA  
18:00 東南アジア研究所 帰学 解散

8月8日(月)9:00~12:00 PLAとボランティア実習の成果に関する参加者内での成果発表会 (東南アジア研究所で行う予定)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

・集中講義の実習時での平常点と最終日の参加者内での発表による。

**【教科書】**

使用しない

**【授業外学習(予習・復習)等】**

・過疎・離農問題について、インターネット、新聞、雑誌等々で目に触れたものをストックして、集中講義参加の前にそれなりに整理しておくことが望まれる。

**【その他(オフィスアワー等)】**

学生教育研究災害傷害保険等に加入。  
フィールドでの宿泊と食費、フィールドノートの購入は受講生負担。  
インターネット、電子メール、パワーポイントは使える方が望ましい。  
フィールドで使う電子カメラもしくはそれにかわるもの(スマホ)、巻尺、長靴などの持参が望まれる。詳しくは上記オフィス・アワーで説明する  
学外でフィールド講義やイベントへの参加などの旅費などの費用は学生負担となる。